

空中散歩！

(株)木のくに屋
本西 宏行

誰しも一度は、

「鳥のように空を飛んでみたい」と思ったことがあるのではないのでしょうか。

そこで、今回のご紹介は『モーターパラグライダー』



モーターパラグライダー



いざ、空中散歩へ

きっかけは、家族とのサマーキャンプでした。

毎年、何かメインイベントを企画してキャンプに行っています。

富士登山・ラフティング(ゴムボートでの急流下り)・ジップライン(ワイヤーロープを滑車で滑る)等、色々と一度は体験してみることにしています。

パラグライダーもその企画の一つで、家族全員が静岡県朝霧高原でパラグライダーの滑空練習&タンデムフライト体験をしました。

丘の斜面を利用した練習では数百メートルの滑空距離でしたが、タンデムフライトでは高度500mの世界へ連れて行ってもらえました。

パラグライダーは動力がないので、山の斜面から風を受けテイクオフした後は自然の上昇気流などを利用して滞空滑空します。

必然的に条件の揃う場所も限定され、その後は気軽には楽しめませんでした。

そこで、自ら動力を得ることで平地からの離陸を可能とし、上昇気流を捕まえられなくても滞空飛行が可能なのが『モーターパラグライダー』です。

パラグライダーと比較して大きな利点は、その飛行自由度の高さ。

行きたい場所、行きたい高さへ動力の力で連れて行ってもらえます。

一見、音がうるさそう…と思われがちですが、高度を取った後はエンジンをアイドリングにして背にした大型扇風機？の羽を止めて…まさに空中散歩！



霞ヶ浦上空(高度700m)からの眺め

モーターパラグライダーというアクティビティ・スポーツは免許という物が有りません。

愛好家の方々に「教え」を乞い、半年程度の練習で写真の様な風景が見られるようになります。(スクールも開講されてますヨ)

空のスポーツは「危険と隣合せ」と色眼鏡で見える方が多いのですが、ルールを守り無理さえしなければ、他のスポーツと危険度は変わりません。

(皆さん落ちるのはイヤなので、すご〜く慎重です…笑)

テニスコート4面分程度の広さの河川敷や公開緑地の芝生を発着グラウンドとして、近隣の方々のご理解や航空管制の制約を守りながら楽しんでいます。



キャノピー



エンジンユニット

キャノピー（翼）とエンジンユニット（動力一式）が中古でも50万円ぐらいから…。

費用的に若年層にはハードルが高く、私の所属するクラブ（30名程）では男女を問わず30歳代～80歳代（最年長88歳）の年齢構成で60歳代が主流です。

離陸前にキャノピーを立ち上げる腕力（大風揚げです）、着陸時に着地する脚力（椅子から飛び降りる）、20kgのエンジンユニットを担ぐ体力（飛び上がる迄の）程度が要求されるだけなので、ご高齢の方も楽しめるスポーツです。

風下の地面にキャノピーを広げ→キャノピーに風をはらませ頭上まで揚げ→風上側に振り返って→エンジンを吹かしてスタート→地面を蹴って離陸。

（20mもあれば離陸可能）

高度はスロットルで上昇し→方向転換は左右のブレイクコードの上げ下げによるキャノピーの開閉→自然落下で高度を下げます。

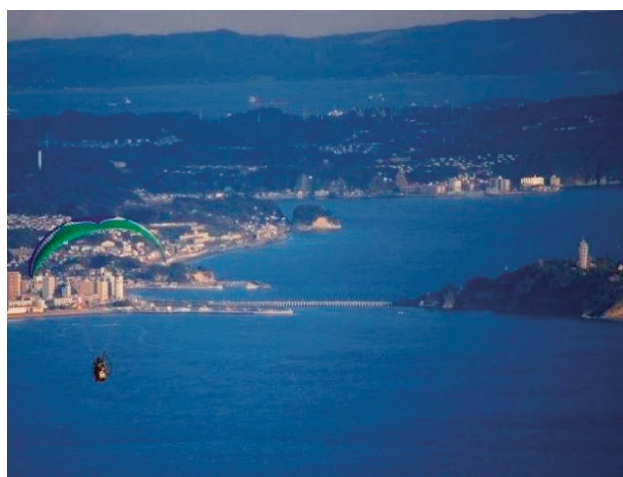
（飛行可能時間は、搭載燃料量しだいで3時間以上）

着陸の方法は→風下側からランディングポイントに向かい→アイドリングで対地速度をしっかりと落として→地上1メートル以下でブレイクコードを引きブレーキ→接地と同時に走りながらスピードを落とし→振り向いてキャノピーを地面に下ろします。

上手くなると宙返り等の曲技飛行なども可能ですが、競技を目指さないのであれば、写真のような「空中散歩」で十分満足でしょう！



大磯上空（高度50m）



江の島上空（高度200m）

フライトエリアによっては高度制限があり、200m以上に上がり過ぎると航空管制に警告を受ける場所がある一方で、特に制限を受けない場所もあります。

地元の愛好家さん達にエリア情報をもらいながら、

「ここでは、500m以上高度を取った方が気流が安定しているヨ。」

と情報交換をしたりしながら、仲間意識も高まります。

最近はTV番組で、芸能人を乗せたタンデムフライトが紹介されていますが

モーターパラグライダーによる空撮では、富士山の山頂まで上昇して火口を映したり、NHK大河ドラマ『龍馬伝』のオープニングシーンでは土佐・桂浜の空撮シーンにも利用されました。

残念ながらこの分野は、ドローンによる空撮に取って代わられつつありますが、レンズを通して見る映像では得られない臨場感は、自分自身の目で見ることでしか得られません！

今日は、フライトできるかな？

自然の中でのスポーツなので、気象条件に一番左右されます。

青く晴れ渡る空の下、

真っ青な海の上、

湘南・大磯をテイクオフ、眼下には砂浜の海岸線、見上げるサーファーや観光客、江の島をぐる～と周って折り返し、箱根の山々を眺めながら小田原まで海岸線をひとつ飛び～！

往復50kmで約2時間のフライトコースは、一番のお気に入りコースです。

もし貴方が高所恐怖症でないとしたら…

「鳥のように空を飛んでみたい」

その、眺めは最高です。



小田原上空（高度300m）からの眺め